

# 令和4年度鹿屋市立寿小学校グランドデザイン

- 諸教育法規
- 児童・地域の実態

- 県、地区、市教育行政の方針
- 今日的な課題

## 学校教育目標

豊かな心 輝く瞳 きらめく汗の寿っ子



<校訓>

「正しく」「強く」「たくましく」

## 学校経営方針

<キャッチフレーズ>

「読書いっぱい 花咲香る 寿小」

- 1 学校教育目標の達成のために、全職員が具体的方策等について共通理解し、職員のよさをさらに伸張させ組織的で職員の総力をもって教育活動の充実に努める。
- 2 人権尊重の精神に立ち、一人一人の子どもを大事にし、子どものやる気を引き出す教育を推進する。
- 3 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある教育活動の展開に努める。
- 4 地域や学校の実態及び子どもたちの心身の発達段階や特性を十分考慮し、コミュニティ・スクールによる地域と連携した社会に開かれた特色ある教育課程の編成に努める。

<p><b>【めざす子ども像】</b> ～子ども自ら輝く～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ よく学び、粘り強く考え、自分なりの考えを表現できる子ども</li> <li>○ 優しく、思いやりの心を持ち、相手の立場に立って考え、関わり行動のきる子ども</li> <li>○ 何事にも積極的に挑戦し、進んで体を鍛える子ども</li> </ul>	<p><b>【めざす学校像】</b> ～子どもが主役となる学校～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 安全で安心して勉強のできる学校</li> <li>○ 一人一人を大切に伸びる学校</li> <li>○ 郷土への理解を深め、愛情を培う学校</li> <li>○ 地域や保護者に信頼される学校</li> <li>○ 躍動している学校</li> </ul>	<p><b>【めざす教師像】</b> ～子どもの思いを生かす教師～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子どもを愛し、子どもと共に学ぶ教職員</li> <li>○ 向上心と使命感を持ち、互いに切磋琢磨し合う教職員</li> <li>○ 授業を大切に、授業改善に努める教職員</li> <li>○ 子どもから敬われ、信頼される教職員</li> </ul>	<p><b>【めざす家庭像】</b> ～子どもが安心できる家庭～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 思いやりのある子どもを育てる家庭</li> <li>○ 基本的な生活習慣を身に付けさせる家庭</li> <li>○ しつげに信念と責任をもつ家庭</li> <li>○ 安らぎのある楽しい家庭</li> </ul>
--	--	---	--

## 重点目標と努力点

学力向上の推進	心豊かでたくましい児童の育成	特色ある教育活動の推進	開かれた学校づくりの推進
<p>《基礎学力の定着》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 基礎・基本の確実な定着                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・「わかる」授業の推進</li> <li>・「できるまでやる」指導の徹底「一(いち)にこだわる」</li> </ul> </li> <li>《学習規律の徹底》</li> <li>(2) 学習に集中できる環境づくり(学業指導の徹底)</li> <li>《教師の指導力向上》</li> <li>(3) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善</li> <li>《家庭との連携》</li> <li>(4) 家庭学習の確実な取組及び見届け(10分×学年+10分)</li> </ol> <p>※ 学力向上プランの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学びの羅針盤及び大隅学力向上リーフレット、鹿児島学力支援システム、よか問等の活用</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 生徒指導の充実                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ・不登校の未然防止、早期発見、早期解決の為にチーム体制の確立連携</li> <li>・構成的グループエンカウンターや学校楽しいーとの活用</li> </ul> </li> <li>(2) 保健・安全指導の充実                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動の習慣化と校内安全指導の徹底</li> </ul> </li> <li>(3) 特別支援教育の充実                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼・保・小連携を通じた就学指導、支援体制の整備(コーディネーターとの連携)</li> </ul> </li> <li>(4) 特別活動の充実                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・異年齢集団活動(寿ッパ・清掃)</li> </ul> </li> <li>(5) 道徳授業の充実</li> <li>(6) 人権同和教育の充実</li> <li>(7) 読書指導の充実(親子読書)</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) ボランティア教育の推進                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ運動「あいさつ+αのおもいやり」の推進</li> <li>・JRCの精神「気づき・考え、実行する」の実践の推進</li> </ul> </li> <li>(2) 読書指導の推進                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・音読カード、本読みカード、子ども読書の日のカード活用(毎月23日は子ども読書の日)</li> </ul> </li> <li>(3) 学校環境の整備・充実                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・「一人一鉢」活動の充実</li> <li>・清掃活動の徹底、師弟同行の清掃活動</li> </ul> </li> <li>(4) 学校運営協議会の円滑な運営及び推進                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と一体となって子どもたちとを育む「地域とともにある学校」づくりの推進</li> </ul> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「かのや学校応援団」の積極的活用(地域の素材を生かした教育活動の展開)</li> <li>(2) コミュニティ・スクールの推進及び地域への情報発信                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭・地域との連携強化</li> </ul> </li> <li>(3) 保護者との共通実践と教育活動の改善への取組</li> <li>(4) 子ども会活動や地域行事等への積極的参加</li> <li>(5) 地域が育む「かごしまの教育」県民週間への取組(学校開放日参観等)</li> <li>(6) 鹿屋東中学校区小中一貫教育の推進を図る。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な学業指導、学習指導や児童生徒の課題の共有と共通実践・評価の取組</li> </ul> </li> </ol>

## 業務改善アクションプラン

【目的】「学校における働き方改革を通じた教育の質の維持・向上」

【目標】○正規の勤務時間を超える勤務は月45時間以内、年360時間以内  
○教職員の80%以上が「業務改善が進んでいる」と実感

【方策】

- 1 教職員の意識改革
  - ・業務改善について、教職員全員で取り組む「1Action」(毎週金曜日は定時退庁日)、教職員一人一人がそれぞれ課題意識をもって取り組む「1Try」を設定する。
  - ・退勤目標時刻(目安:19時30分)を設定する。
  - ・リフレッシュウイーク(8/11～8/17)には、校内行事等を実施しない。
- 2 学校運営の効果的な取組
  - ・出退時刻記録システム「See-Smile」を活用し、教職員の勤務時間を把握する。
  - ・一部の教職員に業務が偏ることのないように校務分掌の分担を見直す。
- 3 学校における勤務環境整備
  - ・ICT機器等を活用した事務処理及び校務データの共有化などを行う。
  - ・データベースや校内LAN等を活用して、教材の共有化を図り、授業準備等の時間を短縮する。(かごしま学力向上支援システム、ライズeライブラリアドバンス、よか問等の活用)
  - ・SC、SSW、特別支援教育支援員、ICT支援員と連携・分担する体制を整備する。
  - ・かのや学校応援団の積極的活用を行い、学校支援ボランティア等の地域ボランティアの協力を得る。